



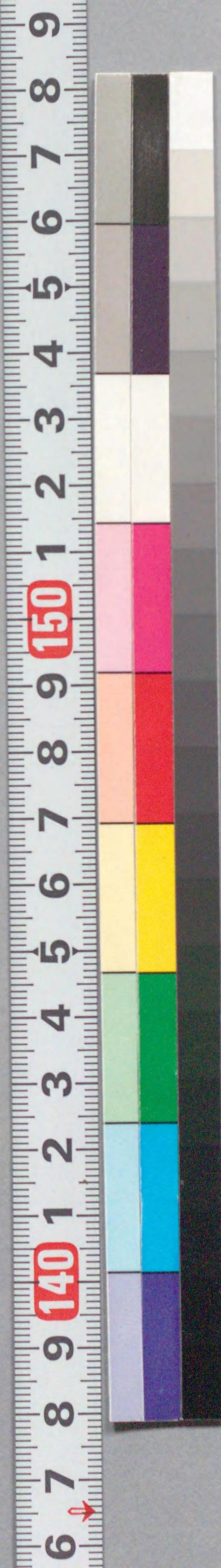
208  
2  
142

小説比翼文

下止

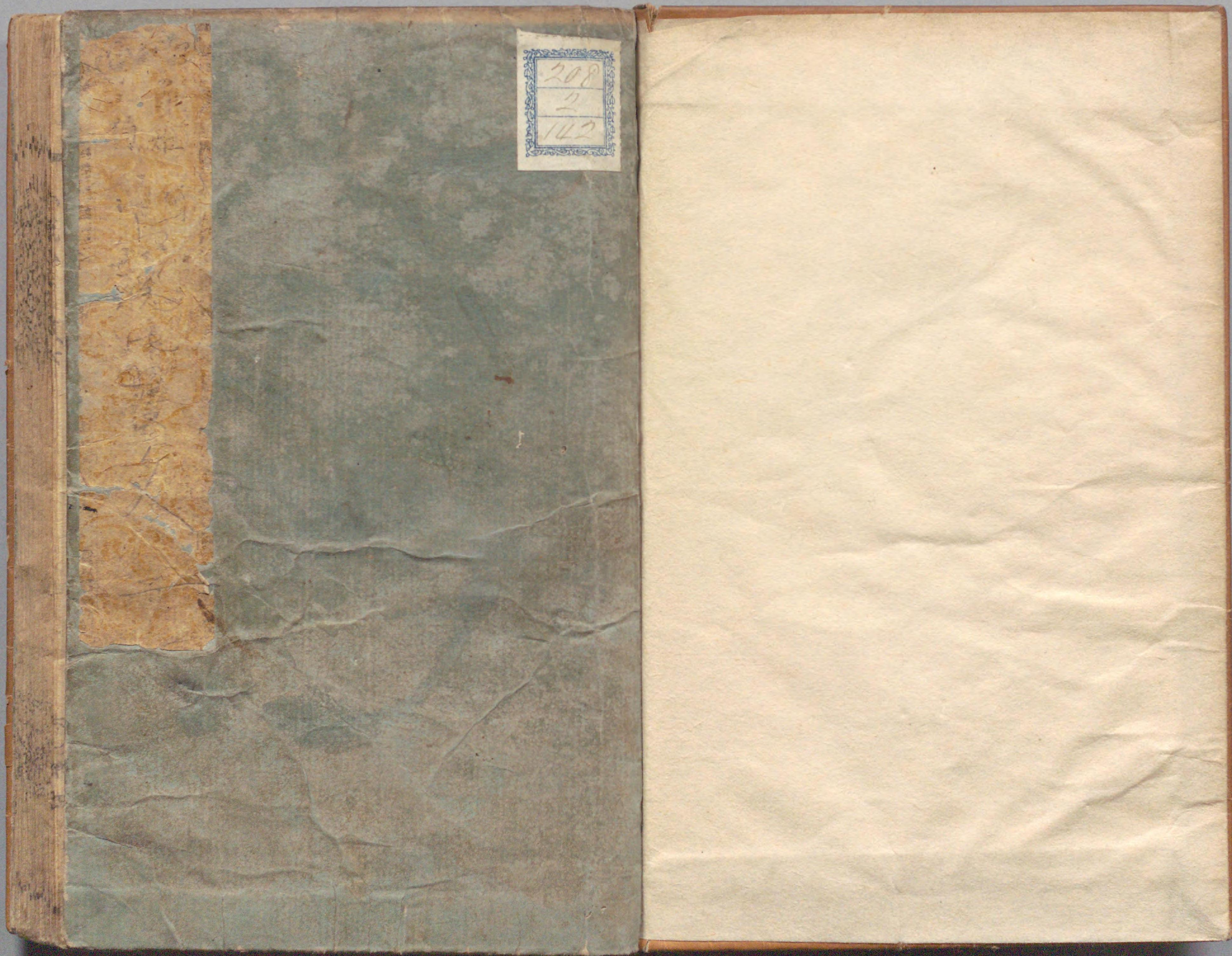
蔵書圖

国立国会図書館 小説比翼文 2巻 208-142

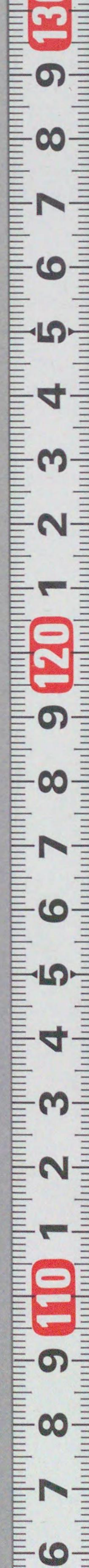


ガラス使用





208  
2  
142





小説比翼文下巻

東都

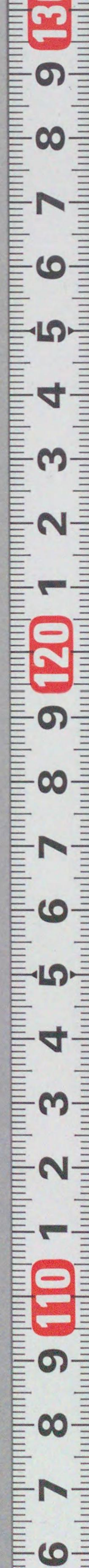
曲亭馬琴著編

第四編

後人怒り助方夫をさる事  
并寛家を過て助市仇を養ふ事  
家少某侯のめり徳下り陰奥へ

本所助方夫が  
起りしれあつと心の中系まて一日見よむなるハ物も

は度れを刀合よ辨むしと誓者友のちろとわいひま  
右内ハより恩養をさる人なればさる小慮ありと









ちちあやせ 肩こも宝剣をとり獲りたが先祖一孝も立  
づと。これのどくもろくも一不彼をを食く又不奴を  
久きれば。これの事をよひおくその物よきに死し  
を責けし不彼却て大は怒くこれを大侍と罵るその  
度ハ三四白が屋を統よりおく子の畜生とあがり。親ハ  
大を釣る大母ハ麟をばさむとい入子ともふありと歌なり  
これおますがに思がごとく射て捨んとくおひが。汝不が路  
路に迷入とい不奴さふをまをさくけりやと夢もあ  
と捨入つと立あがり。又いほ思もあらんが。これハ得る

一難し。これをもし思ふなぐい何れ妻のどくも人やとむとり  
おろし。刀を誇るをさるを又い遠継とさむとむとむ  
名やその教をたふさんど。捨入ハ足は信て助を夫が家お  
そり新案内もせむと裡面お入をわおわ。物も夫ハ甲陽  
軍鑑をよむたが。盲法師不肩痺るせ辰より。捨入を  
おれをえりよりその弟もむとと筆。忽地銀海をえ  
おれに朱唇を翫し。声をあらしげく。いつく。你鶴も  
つ分父を大侍と罵る夫人を維く。刀合も勝利を  
得物よきに死して宝剣をくさるも。この是亦人面獣







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130

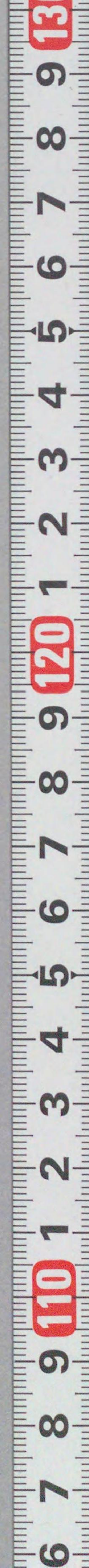


心なる。不情の兇れ腰刀切らるやまればさうや。若小志死  
なす。といひながら。後身も死せむと助者夫を只一刀お切  
伏し。次の廂小居合せたりけり。門人又去輩これをもて  
大おどろ死師通の仇人述さうと接つ。且さう立む。又  
権八ものかぎたせだ。右よあうた。持て立。池小二人を  
次殺し。三人小身負せけ。血の流し。く。知何をす。  
甘谷子錦をさう。龍田は楓をら。さう。権八遂小  
納戸を。名さう。彼夜先丸をさう。是ハ。家  
宝剣なれば。今持る。と。喚り。外面。小。さう。出る。に。

家僕。お。の。別。勢。小。辟。易。し。あ。う。権。八。の。も。た。り。代。附  
助。市。ハ。家。主。を。合。せ。む。奴。僕。が。あ。う。せ。ま。あ。お。ど。ろ。死。後。を  
不。せ。小。立。え。り。この。光。景。を。見。て。或。ハ。歎。け。た。也。ハ。思。ひ。ま。し。  
右。内。が。家。小。ま。り。奴。も。し。く。急。返。ハ。ま。う。せ。と。い。た。  
権。八。ハ。兄。の。仇。人。なり。速。よ。い。ま。う。と。い。ひ。つ。て。を。和。解。  
え。ろ。ろ。げ。て。ぞ。扱。さ。る。右。内。撃。く。け。た。も。た。く。兄。の。仇  
を。恨。ん。ハ。或。夫。の。道。なり。ゆ。り。あ。も。つ。か。見。を。遍。み。た。心  
の。あ。ま。せ。ま。う。と。い。ひ。あ。が。紙。門。押。お。た。く。し。は。し。て。後  
見。れ。ハ。権。八。の。あ。い。む。び。り。と。お。書。を。ま。き。く。知。免。り。







助市眉を公を免。あかろとて。右内ちまひひひく。を  
 女子をららく何かせんとし。右内寛尔とて。を  
 助市より口がをを。後八僅十六女ありて。彼法  
 の一流を極たる助を夫を射く。立退候どおれ。など  
 て。鈍くも家よ隠れ居る。是下の。来るを結人や。集  
 れ法を。たしたるもの。おれ。バ。か見。お。あ。ら。ど。天。地。の。あ  
 らん。たりの。探。索。く。宿。志。を。遂。げ。る。べし。ま。か。子。ハ。け  
 女見の。是。下。と。て。け。あ。る。と。あ。ら。る。ま。あ。ら。は。は。  
 くれ。後。八。を。隠。し。あ。ら。る。鈍。あ。ら。る。あ。女。見。を。あ。ら。る。と

一。公。や。せ。お。ら。ら。れ。あ。ら。る。助。市。何。と。お。ま。ま。ひ。  
 くれ。息。女。と。假。初。の。賢。い。あ。れ。と。今。か。く。寛。を。締。ら。い。  
 幸。ら。私。の。情。小。鳥。と。て。あ。ら。る。ま。あ。ら。る。を。あ。ら。る。え。ん。や。さ。  
 も。後。八。を。助。さ。ら。る。を。あ。ら。る。欺。ん。と。あ。ら。る。夫。夫。ま。あ。ら。る。  
 釋。あ。ら。る。ま。あ。ら。る。右。内。を。あ。ら。る。と。あ。ら。る。小。探。立。あ。ら。る。  
 この。古。去。り。助。市。を。あ。ら。る。あ。ら。る。を。あ。ら。る。欺。く。あ。ら。る。  
 柝。後。八。助。を。夫。を。切。害。せ。り。と。風。声。あ。ら。る。あ。ら。る。あ。ら。る。  
 此。と。迫。り。て。自。殺。せ。ん。と。せ。り。由。急。ふ。あ。ら。る。あ。ら。る。を。縛。  
 け。り。あ。ら。る。女。見。を。是。下。に。あ。ら。る。と。あ。ら。る。あ。ら。る。足。

ガラス使用

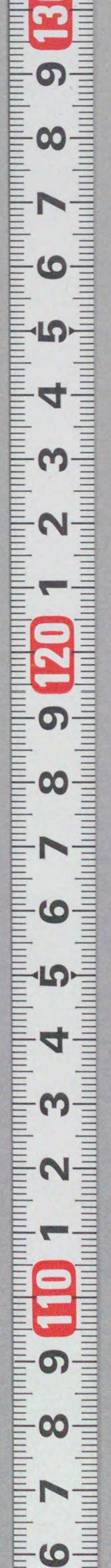


下こ不ふ控くわ八はちを封ふうせん為ための寸すん志しなりとりふ。助すけ市いちのりく  
疑うたがひあきまく。その故ゆゑを同どうハ右みぎ内うちのりく。さればとま。  
控くわ八はち年ねん少せう々々れども少すくく名な義ぎあり。足あ下したの仇あやを復は  
人ひととまををあれハ渠を地ちを滑なりまぐも運うべ。ここ成なり  
仇あや人の女むすめ弟あにたるお業わざを養やしなおくと死しハ切きハ助すけ市いちを不ふ  
迷まよひ仇あやをむらうよ公こう平へいと彼かれえづから喜よろこぶをゆるさば骨ほね  
せどせどく宿しゆく志しを遂つひになん怨うらみを置おくの後のちハむも成なり  
足あ下したの婦つとめとせんとも。又またせるドども。ああ方かたのままなる  
づづととららののええととぐぐ理ことわりありけしバ助すけ市いち忽たち地ちを

ろ解とてとふふああむむけけふふやや席せきをを替かへへのの陥おちをを設たけ  
有あるるをを捕とりりのの々々四よををわわくく續つくく教しふふ志しががふふ。彼かれ令たま  
控くわ八はち翅つばありりくく天てん小せう昇しやう星せいをを辨わりりてて水みづ又また没ぼつとも終つひを  
個こののどどくくななんんとと明あ晃わうくくたたるる刀やをを引ひ後のちおお業わざがが指さを  
切き割わりハハ索さくハハちちとと糸いと小せう落らくちちままハハ笑わらひひのの意い悲ひ足あの  
糸いととと急いそ。又また助すけ市いちがが心こころのの申まをええおおももれれくく左ひだり右みぎいいん  
言ことももななくく。ああとと泣なくく声こゑをを惜おぼしま。右みぎ内うちああれれををええく  
双ふた眼まなこ小せう涙なみだををららりり免まぬややままむむととああいいくく泣なをを是こゝれ  
糸いと世よのの要い業わざぞぞうう。かかららううたた世よのの嵐あらしああくくハハ業わざ糸いと云い













志づく陽晴し心決まらうが。結とあらう附く  
 誓う。く。大丈夫。お宇宙をりく家とまじり。  
 けいあぞぬを東く橋とならんや。さうが浪速の方  
 お身をよせんと俄に申途みく。新巻をこの言  
 輪おまらう。日ハを西よかぶるぬ。浪傍の茶店  
 小少刻をよせ免。さあひの交るとも。河津おま  
 馳行んとむらり。ちらて立出るを。茶店の主人と  
 めく。い。く。日くれ。さ。松物。忽。なる。少集の  
 夜。終。志。あ。り。ん。と。い。つ。あ。り。て。も。危。し。今。夜。ハ。お。河。津。お

一病。一。聖。さ。く。うち。立。あ。く。ー。とい。ふ。権。八。冷。笑。て。吾  
 け。あ。り。て。強。を。急。ぐ。もの。なり。恨。令。中。伏。山。客。の。患  
 あり。とも。こ。が。両。刀。腰。お。あり。何。の。物。り。あ。る。づ。れ。とい。ひ。捨。て  
 出。去。け。る。その。以。海。草。苑。川。戸。小。仕。侠。の。名。を。え。たる。情  
 随。長。を。傳。と。い。ふ。もの。大。師。河。原。の。賽。お。ま。茶。店。お  
 想。居。ら。う。一。が。権。八。が。今。の。廣。を。笑。う。大。不。嘆。矣  
 一。げ。お。や。苑。の。吉。野。人。ハ。氏。士。と。い。ふ。なる。今。れ。其  
 少年。の。云。際。しく。あ。り。あ。れ。と。寡。ハ。り。く。元。不。敵  
 か。こ。な。れ。ハ。申。途。山。客。の。為。よ。な。や。ま。ま。と。い。え。と。必。せ。り。





目れより引く。機不陥て彼をまきつと。  
 叱く。裳を褰西をさくぞ馳去ける。この次  
 ハ使者おぬく。六角丹朶白鞘組大小の神祇など。  
 ありく。その隊あり。劇孟季布が風を慕ふ。その  
 おく。此中。の長き漕ハ一個の志氣あり。そ  
 策をたきけく。別を征。利をまき。義をり。  
 ちくとさる。其家狭なれば。備懸が名をいふ。た  
 ハ嬰鬼の泣を。まき。なぐ。狭控も。その下風不立  
 んと。を。軽む。なり。新そ。長き漕ハ。只。骨路を。多死

ける。が。お。海。あ。く。日。ハ。れ。ぬ。松。風。さ。む。く。ま。く。人。迹  
 を。さ。ら。波。濤。岩。を。さ。ら。く。渺。く。り。已。不。終。が。森  
 不。走。つ。死。く。ん。ま。は。あ。る。遠。き。で。控。ハ。大。勢。の。山。宮  
 よ。り。お。れ。雲。飛。重。お。飛。戦。辰。り。一。が。忽。地。三。四  
 人を破け。威風を。御。稟。統。たり。あり。揚。る。刀。炎。か。  
 光明赫奕と。閃。光。出。雲。夜。も。白。昏。の。ど。く。な。れ。ば。  
 長き漕ハ。よ。警。嘆。一。志。が。く。本。藩。お。ま。き。さ。ま。て。  
 其の光系を。宛。辰。き。り。一。が。今。ハ。あ。く。へ。ぬ。く。を。  
 出。少。来。助。を。刀。さ。さ。る。そ。と。声。を。う。け。矢。場。ハ。西。個。の

小説比翼文下

四十三







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13



山容を切らせども。戒ハ加勢あるをえり。四分ハ落  
ふ近らせたり。控ハ刀を握りて。老く一札。何の  
人久あふ。祿ども。今の危難をどうもあつるをこれ  
うき。一さよ。この。長き清定おとせり。く。笑  
及びぬ。つ。ん。これハ。惜。随。長き清なり。され。小言  
脇の。業。店。あり。君が。き。く。お。死。一。云。を。感。激。一。申  
途。は。災。害。あり。ん。と。を。お。あ。き。あ。ま。れ。了。笑。を  
の。云。小。き。か。つ。て。君。が。奴。法。九。を。ぞ。あ。く。ふ。あ。め。の。刀  
此。笑。より。光。明。か。あ。り。て。害。夜。を。て。せ。り。正。め。の。い。か

か。一。さ。よ。と。い。ひ。控。ハ。微。笑。く。い。く。疑。ひ。あ。り。と。さ。り  
たり。こ。か。げ。刀。ハ。夜。光。九。と。名。は。け。た。る。雨。の。宝。奴。あり。く。  
あ。ん。や。害。夜。は。あ。れ。を。援。と。死。ハ。光。明。を。と。ま。え。の。奇。特。あり。この  
刀。の。由。名。を。り。く。た。々。を。立。去。遠。く。浪。花。津。ふ。さ。さ。り。を  
約。ん。と。名。あ。え。長。き。清。打。ま。づ。死。仔。細。い。あ。く。と。い。ひ。ぞ。も  
さ。ぶ。死。と。あ。れ。バ。こ。え。夜。を。犯。り。て。控。ハ。志。あ。つ。た。ま。は。り。あ。り  
ぬ。必。は。約。ん。あり。あ。ま。く。ハ。け。地。よ。と。さ。り。あ。り。吾。ハ。い。ふ  
く。ひ。死。を。の。ち。か。う。我。ハ。辨。が。測。の。鐘。あり。も。守。り。と。一。余  
ハ。秋。葉。の。散。相。あり。控。一。と。き。身。の。死。を。疑。ひ。あ。え















一。ふじらえ多し。いぢりぢり。息らちあつたあか  
 か。何の偽り。ん。心。方。り。取。つ。る。目。の。だ。け。あ。つ。た。  
 神。さ。け。け。百。集。の。身。を。あ。ら。せ。し。て。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。  
 一。あ。ら。せ。し。て。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 違。な。く。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。  
 男。は。り。取。つ。て。世。を。志。の。べ。り。娘。は。女。の。親。と。な。つ。た。  
 一。あ。ら。せ。し。て。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 目。さ。ら。し。め。り。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。言。小。孫。つ。ぎ。に。て。梅。と。板。庇。を。る。む。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 取。を。り。免。れ。さ。し。め。り。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。り。柳。小。菟。の。喉。を。し。り。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 を。鑑。切。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。女。三。社。の。鏡。と。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 の。人。情。写。し。め。り。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。これ。を。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。今。ら。死。世。の。親。は。先。だ。ら。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。  
 一。劫。の。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。あ。つ。た。い。ぢ。り。ぢ。り。

小孫ひさし下

四十九





13 8 7 6 5 4 3 2 1 120 9 8 7 6 5 4 3 2 1 110 8 7 6 5 4 3 2 1

解を免す

一らきりどぞなれりけ。

五十

第六編

幡隨黑夜義弟をさらむ事  
并男女死を決して浅茅原奔度

かくてその事ゆれしあまの美立りの畏もるる  
星まゝの流る。小思島をぬぎとなり。耐をぬ青  
梅をこの金く悪阻のけだありけはる人ゆき  
あまの客よさらあてありやと問せられ。さし  
見えさうくあしといふ。あまのれうださる賣卜者ふつた  
てらふせせむは。是いつひ小思が傍にあまの子

あるぞ。その人外陰ありて内陽なり。まらぬくえ  
久といふ人あまをさきくそとく怪とられよ  
心をつけく窺へば。長玄傳が娘ありけ。女はあま  
疑。世ふりし月とらいつのあまの免とつるわく  
斌。一。ふはまらるる男子なればあまおどろけり  
あれたる世よあまの耐ハ小思が身は條くつを活業  
の障とつるのそまらぬ都く人よらるる。下。只何  
となく彼を播随ふるを了と忽地あれを退退ぬ  
長玄傳は坂をゆき控入ふ教諭しけり。九賢志と

ガラス使用







13 8 7 6 5 4 3 2 1 120 9 8 7 6 5 4 3 2 1 110 9 8 7 6 5 4 3 2 1

小笠原の文下  
おん居もさし。あふれく控へんと邪氣萌一。或  
士第らさる死ハ別途をもちまじり。こは建も世  
よろづれ身あもあふさ。遮莫百年の命命も  
今の多死あうえさうと。さよより花あくは切を  
ちえける。さればあひの術何れこの妻巷羅きして  
乃乃の妻と消るもの多し。去去清をきもける  
を笑あつて大は憤了。それ俠志の魁首となりて  
十年終よ一きもあふさむらび。今控へん悪行不  
よりく末世ふくがをさうせん。その朽惜さうや。

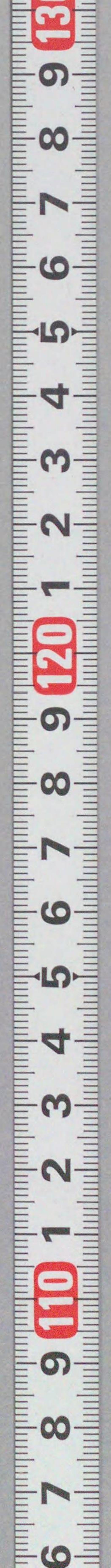
ふくくこれを悲々々。ある夜控へ又市中浅徘徊  
してふれ成まふも出あうと。竊へば去身扉の声  
もさえきさる。日本境のあふさう。懐おひかふまふ人  
あり。是こそあふひ此實なれと笛袋よ志とたる刀  
を授く切つれば彼人あふえきうと授合せ。二合  
たふひが控へ夜光丸の光りあつれ。あの人をさく  
見れば。是播随去去清之。あふさとあふさ。刀を引  
て入んとさるを。長云清の天蓋を摺り動せ。声  
をあらげ。いづく。お猫もあふさ。あふさ。





小説比翼文下

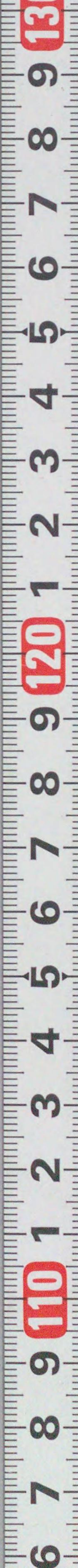
五十一





小説比翼文下

づれてさうとらふども。さう仔細あれバコトを  
 出来さうと相付ひて花川戸お立ちの。うまが  
 惣一又二十と云ふ。これ書籍をよむさうハ和  
 漢の例ハあつたれども。むく袴の平井保捕洛中  
 を横切し。見保昌を害せんとせし。今宵此  
 幸よく似たり。さても小恙とらふ妖狐は魅られしを  
 ハ昔の控入あつた。さうけ地を立去。カ  
 一日も思をささる。是さうの因も不捕さう。知  
 引づらどと。或は好り或は多。忽地これを退す  
 ぬ控入さうの恨ふ。さうもな。さうと立出  
 一が結とさひ。直小三浦ヶ終お志のび  
 夜子終さう。構と小宅。小恙よ。さうの要事  
 を懺悔して。今ハこの地。さうも。さう  
 小赴なり。縁あ。又あ。さうと。世さ  
 細く。小恙ハ。只。さう  
 この言を。中。さう。さう  
 の子。生死の際。さう。君。さう  
 目も。さう。死。さう。









13  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
120  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
110  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1

山崎ひさく下

五十六

そ昔がうのほと。ころん初代時。きざしく平井の七士  
 小養丸一が。その家の見とありわく。ある時破麻鬼前  
 まく額を射らむ。そのらむは。実れ親の許不  
 りのーが父大病おあしてせんまぶす。九方のまけ  
 里ふらうれ来一う家後なく。今は父の生死を志す  
 ぶ。まうふ人となりて後。酒を飲と死。部のむく  
 小多の矢木あう。妓女と色をり。あう。さうさ  
 なら。是をわけて酒を飲。今。いれ。き。が  
 く。飲。忽。も。や。か。る。貌。を。え。せ。な。り。と。身  
 して。敵。を。う。ち。を。後。に。備。細。を。ま。く。平。井。に  
 志。す。小。多。が。父。の。西。村。保。平。と。い。ひ。さ。り。や。こ。の。何。と  
 て。父。の。名。を。志。り。ぬ。む。と。小。多。も。疑。ひ。惑。り。控。入  
 堂。を。う。ち。し。つ。く。小。多。と。い。れ。の。二。世。に。悪。縁。之。れ  
 こ。を。小。多。が。敵。に。傷。し。る。の。村。の。小。見。な。し。と。う。も。父。母。の。お  
 か。う。小。多。の。目。黒。の。七。士。西。村。何。が。か。女。見。を。中。な。む。  
 これ。を。小。多。妻。せ。んと。お。な。し。が。の。多。睡。か。ぬ。を。う。  
 が。ひ。平。井。親。喜。天。の。菴。を。ふ。ら。う。り。せ。け。ふ。成。人。の。ら。ま  
 ち。す。か。う。べ。い。あ。の。世。ど。も。是。を。夫。婦。と。な。り。死。の。共。不













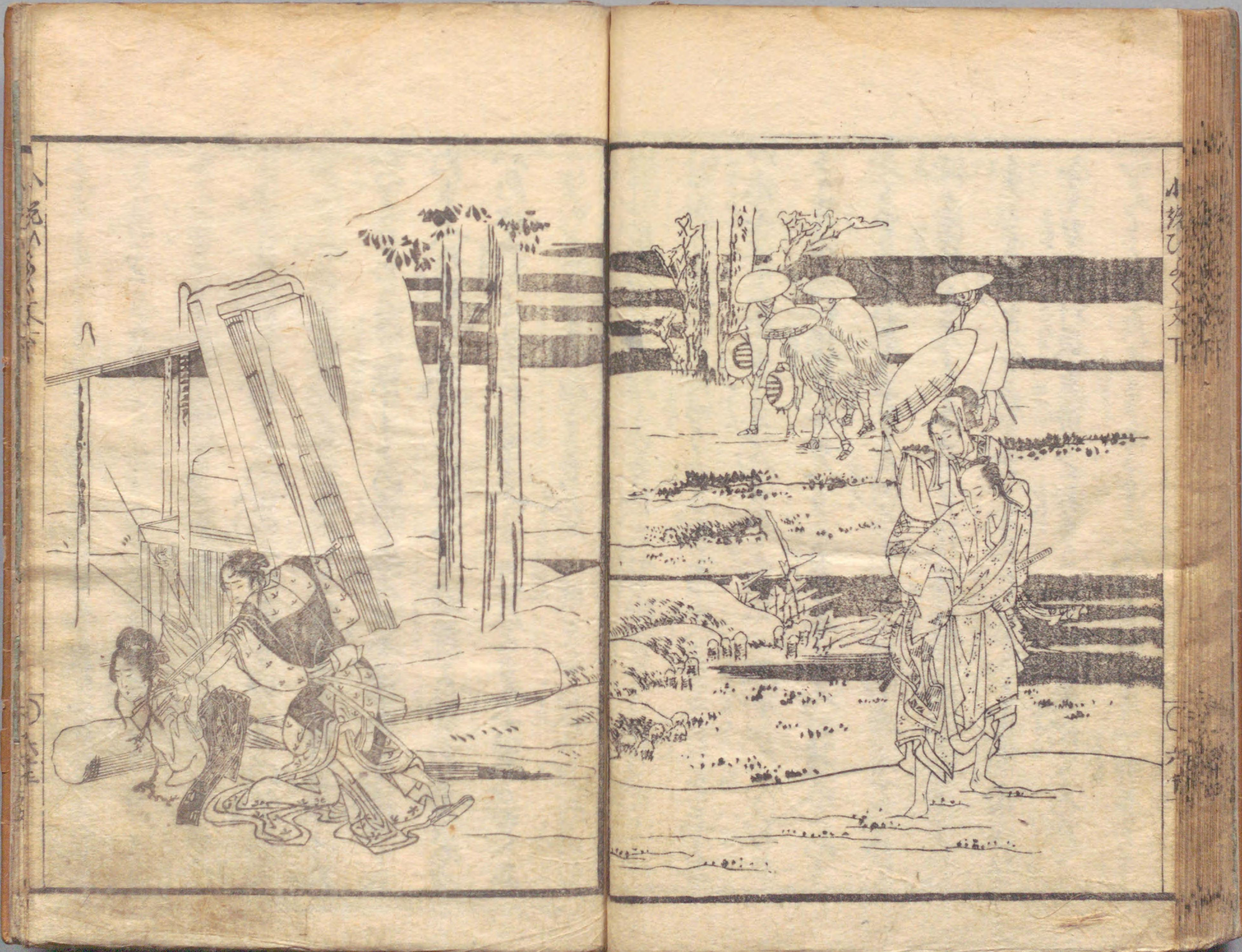


うとあらは慌声あはてこゝろをききつゞは探りさが。夜光丸やせうがんを引抜ひきぬて骨ほね  
のありをさし通とほせバ刀やいばの光ひかり四面しめんをさし。漬つける血ち  
雪ゆきおみかれく霧かすみ管かん山の紫むらさき霜しもおむし。控まも八やち刀やいばの光ひかり  
明あみく。そぐめくその人ひとをえまじバ刺さ殺ころせし小笠こがさに  
あまを妹いへあまなつりたれば。さしおおむしおむし死し相あひ然ぜんと  
て立たさるたふと退ひ人ひとをつれぬとええく。控まも八やち刀やいばをのぞ  
たこの声こゑ耳みみをつつぬけなせむたく妹いへが首くびを打うち落おす。  
袖そで引ひちぎりて押おつて退ひふその場ばを立た去さけり。お赤あか  
本ほん所ところ助すけ市いちハ小笠こがさを負おく。踏ふ十じゅう町ちやうをり来きり。一いち肘ひじ儼げんお

挑ひら灯とう星せいの玉たまく泣なめ多おほ出で大おほ勢せい田でん方かたありさう困くわ。小  
笠こがさをさしせくと鳴なり冬ふゆ。助すけ市いち又またよその旅りょを志しと林はやし  
バ槍やりをぬくとえくまんとと。小笠こがさハ挑ひら灯とうの火ひくげお  
くその人ひとハ摸も摸もをえく。負おふ来き一人ひとりハ控まも八やち刀やいばをさし  
さる由よし。そのあさうと物ものびあつはバ。助すけ市いちもさめて  
彼かれが面おもて親おやをえく。大おほまおむし縁ゆかり故こを回まわんとし。さし死し。  
て。さし指さしをさし揚あ事ことつさうら傷きずんとし。助すけ市いちせし  
手て刀やいばを引ひ抜ぬ多おほ勢せいをさし。あひて。聞きが忽たち地ぢく方かた内うちく  
おむく。これ大おほ屋やある身みの人ひとをさし。あむ一いち命いのちをさし。







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13











一はは小窓の只管千鈞の涙よりたれぬ夜の夜は  
 仏前不通夜せしがいつのるあやを乞出ん持入が墓の  
 前あり。自及志きくぢらせたりける一胡座をくくらの  
 七殻を指入が墓よりなまむ葬りて石の志をを跡し  
 といふ意の比翼塚はなりいつのるははを比翼塚  
 といふぞとたればちえべ二ツの石塔婆ありる二三尺  
 高り一が一夕雌雄の稚子塚のこまを来りて啼声  
 いと多し次の如くこれをるをよむ夜はちち不兩墳石を合  
 し。この回毫髪も容かざし。されば衛侯の女香お子の





208  
2  
142

死を懸て夫婦二の雄と争し例了るる世の人を是を以て  
 翼塚と云ふ。又あるまが肩坂を袖と云ふ埋し地を袖  
 塚と名づくともや。そのら平井右内ハ子孫未だ凶意  
 少ゆへ忽地警切切と清澤の行志と争り因悪未  
 了と一羽唐ともは怪をせける。其の菴を締しと云ふ  
 を終人坂と呼ぶせり。夫天細ハ疎ありとわきまは車  
 の覆をえと。後車の戒と云ふと此ハ夫婦和合。見孫  
 孝明の爲と續老勅徳と云ふ富貴榮達疑ハ云。

小説比翼文下巻 畢

曲亭 主人 新編 蓑笠雨談	繪入 全五冊	同 右 初編三冊
月氷奇縁	繪入 全五冊	同 右 初編三冊
曲亭傳奇花釵兒	中本二冊	中本八冊
小説比翼文	全二冊	中本八冊

享和四年歲病甲子正月吉日兌行

江戸本町徐通油町  
 徳鶴堂 鶴屋喜右衛門 梓





208  
2  
142

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 131





国立国会図書館 小説比翼文 2巻 208-142



ガラス使用

